

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス・児童発達支援あそびⅡ		
○保護者評価実施期間	2026年1月16日		2026年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37	(回答者数) 35
○従業者評価実施期間	2026年1月16日		2026年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月21日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小学校や中学校、支援学校の勤務経験を活かして、療育に当たることができる。学校や園での生活の流れやクラスでの子ども達の様子を想像しやすく、在籍する子ども達の躰きやすい点を把握することができる。また、学校の授業に合わせた学習保障を行うことができる。	躰きやすい点に関しては、事前に見通しを持たせておく、先取り学習を行っておくなどの工夫をしている。園児には小学1年生の学習を、小学6年生には中学1年生の学習の提供も行っている。明日すぐに学校で生きていく学校教育に並走した学習保障にも取り組んでいる。	高学年になるにつれて、学習内容は高度化していく。教えてもらう受動的な姿勢だけではついていけなくなるので、主体的に学ぶ姿勢を身に付けさせていく必要がある。今後はより一層「自分一人でも学習を進めていくことができる力」を習得するプログラムを加えていく。
2	個別・少人数対応を行っているので、大人数が苦手であったり、不登校傾向のある子ども達にも通しやすい施設である。また施設内で猫を飼っていることで、動物好きの子ども達は通所意欲・学習意欲へと繋がっている。	不登校を未然に防ぐためにも、宿題の保障に努めている。その他にも、家や学校ではしたげられない学習を引き受け仕上げていくことで、登校への負担を軽減している。教育相談の時間も意図的に設け、子ども達の気持ちに寄り添っている。	不登校になりそうな場面は未然に防ぐことができてきたが、完全不登校になった子ども達の学校復帰には時間がかかっている状態である。学校や家庭と、さらに連携をとっていく。
3	園や学校との連携を密に図っている。支援会議や下校時のお迎え等で情報を共有し、療育に活かしている。	下校時刻や行事についての情報を得るだけでなく、普段の子ども達の様子も何かあれば聞くようにしている。子どもの主軸となる学校生活を意識して、子どもたちが学校で安心して生活できるサポートを行えるよう意識している。	中学校支援学級・小学校・支援学校に在籍している子どもについては全員、全ての学校へ行き会議を行ったが、園と中学校通常級在籍の子どもについては、全員の会議までは行えていないので、今後はそこも拡充していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別・少人数対応を行っているので、長い預かりはできない。	個別・少人数対応を考えると、同じ時間帯に受け入れる子どもの人数は必然的に決まってくる。学校や園での生活も大切にしたいので、平日の利用時間は必然的に夕方を中心となってくる。	長い預かりができない分、質の向上を目指す。また、保護者との連携のもと、家庭療育の強化も目指す。
2	個別ではできるが、集団に戻った時には力が発揮できない子ども達がいる。	社会に出ていく子ども達に対して、「自分に合わせてもらって力を伸ばす」経験だけでなく「自分が周囲に合わせるができる」経験も必要である。子どもに合わせた支援を提供しているが、個別であっても「支援のし過ぎ」がないよう気を付けている。	今だけを見て支援するのではなく、長期的な目標を見据えて支援する必要がある。より一層「どんな生活を将来送りたいのか」「どんな仕事をしたいのか」を大切に「周囲からの支援が減ったときどうするのか」「自分で自分の苦手をどうカバーするのか」を、重点目標に入れて支援してきた。
3	学校や園との連携会議の時間が持ちにくい。	子どもが来所している時間は子どもも優先でいきたいので、会議は午前中を希望したい。しかし学校や園も、子どもが居る時間帯に会議の時間は作りにくい。双方の都合の良い時間が重ならない。	現在、夏休み等の長期休みを利用して、計画的に実施している。学校の方にも1年間に一度は会議を持ちたい旨をお伝えし、数か月前から依頼をして、実施に繋げている。今後もう少しかやりくりして、拡充いきたい。